

認知症と病院連携 ～地域連携担当の立場から～

白金整形外科病院 ソーシャルワーカー 佐藤 潤

現在国の方針で病院の機能分化が進んでいる。治療は急性期病院、機能回復訓練はリハビリテーション病院、長期療養は療養型病院、というように役割が分かれてきている。以前のように、治療をした病院で退院できるレベルまで経過をみていくことが困難であるため、転院を余儀なくされている。認知症患者は環境が変わるとかなりのストレスとなるため、できるだけ慣れた環境が必要だが、制度上困難な状況である。このような状況において、認知症患者のストレスを減らすには、せめてケアの仕方を統一することが望ましい。そのためには、個々の患者に合わせてどのような対応をしているのか、などの情報共有が必須となる。所属機関の機能が違って、お互いを尊重し、思いやりを持ち、相手にとって必要な情報を交換することが必須である。相手が何を求めているのかを知るにはコミュニケーションが大切であり、顔を合わせて話し合える場ができるだけ多く設けられることが理想である。

認知症患者にとって最善の環境が提供できるよう、地域のそれぞれの立場の人が連携し、各々の強みを活かしたサービスを展開できるネットワーク作りが望まれる。